

令和5年度第1回射水市障がい者総合支援協議会議事録

日 時 令和5年6月7日（水）
午後3時～午後4時40分
場 所 射水市役所本庁舎3階
会議室302・303

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

(1) 令和4年度地域活動支援センター及び相談支援事業実施報告

資料1

(2) 令和4年度障がい者総合支援協議会 専門部会報告

資料2

(3) 令和5年度地域活動支援センター及び相談支援事業計画

資料3

《質疑応答》

委 員 : 体制づくり、連携強化について説明されていたが、「体制づくり」は何かを問いたい。

いつまでにどのような体制を作るのか、具体的にどこでどのように協議されるだろうか。

私は、協議会委員を長く務めているが、日常にお世話になっている方がこの協議会の中に何人もいらっしゃる。日常的に顔が分かるつながりこそが本当の体制づくりなのではないか。

具体的で計画性のある内容を誰が考えるのか聞きたい。

教科書に書いてあるようなことが資料には記載されているが、実際に、射水市では何が課題なのか、よくわからない。

また、障がい福祉サービス事業者の代表として申し上げたい。最近、コロナの取扱いが5類に位置付けられた。介護サービス事業所もそうだが、経営難、人材不足、人材育成や事業継承ができない声を現場からたくさん聞いている。これまでは、サービスのことばかり協議してきたが、これからは一般の方たちとの対話をしていく必要ではないか。

事務局 : 地域から出ている課題に対する取組みについて、今後、具体的にどのような体制づくりを進めていくかについては、協議会の中のそれぞれの部会の中で課題の検討を行い、今後の体制も含めて協議していきたい。併せて、委員の皆様からの意見をお聞きする。

委員：誰が、いつまで、何をするのかという事を話し合うためにこの協議会がある。会議の開催回数が限られているので、取組みを行うことについて、具体的に進めるよう何年も訴えている。どこの部会でどのようなことを協議するのか、この協議会で何を決定するのか、この会議で具体的な提案をしてほしい。多方面から情報収集を行い、他自治体の取り組みなどを参考にしてほしい。

市民の方は協力的である。ボランティアとしてお世話になっている方が委員の中にいらっしゃる。顔が見えているのに、なぜ体制づくりが進まないのか、よく考えてほしい。

委員：私は障がいサービス事業所の方からボランティアを要望する訴えを聞き、月1回、事業所でボランティア活動を行っている。事業所で様々な経験をしているボランティア経験者から、楽しく活動していると聞き、よかったと感じている。ボランティア分野においても人材不足で高齢化も進んでおり、これからは様々な課題がでてくると思うが、障がいサービス事業所と地域のボランティアがつながる体制づくりをしっかりと考えてもらいたい。

(4) 第3次射水市障がい者基本計画・第7期障がい福祉計画（第3期障がい児福祉計画）の策定について 資料4

会長：新しい計画には、発達障がい者等への支援など新しい項目があり、計画の内容も変わってくる。また、性別に「その他」が追加されるなど、性別に関する考え方も変わる。発達障がいはスペクトラムであり、その傾向は皆もっている。計画の視点やアンケート結果の見方などが違ってくるのではないかと。様々な課題に対する対応が必要となってくる。素案はどのようにまとめるのか。

事務局：国や県が示す計画の方針や骨子案を参考に、7月に実施するアンケート調査を踏まえて内容を検討する。

会長：アンケートに関する意見をこの場ですぐ出すのは難しいだろう。いつまで、意見を出したらよいか。

事務局：6月13日までをお願いしたい。

委員：前回のアンケートでは、対象者に高齢者の割合が多かった。身体障が

い者のニーズが、アンケートでは十分汲み取れていなかったのではないかと感じる。事務局からは、今後計画を策定する際には、高齢になってから身体障がい者手帳を取得された方を考慮して、身体障がい者のニーズを把握できるよう対応すると説明があったが、その件についてどのように対処されたのか。

事務局： アンケート調査対象者の条件設定時に、手帳取得時の年齢を考慮して抽出したいと考えている。

委員： 他のアンケートで、困っている、不安に思っていることを聞く設問はよくある。この考え方は、問題思考である。多くの課題が出されたアンケート結果をまとめることは難しい。例えば、生活全般に関することで、不安や困っていることを尋ねることはもちろん大切だが、課題の解決・対処方法や、幸せを感じる瞬間を訪ねるような解決思考の設問を取り入れてはどうか。この視点を取り入れることで、課題解決の答えにつながる場合がある。

委員： 今回のアンケート調査の設問数が、前回より少ないのはなぜか。

事務局： 内容自体は前回と大きく変わっていない。回答者の負担を減らすために、複数の設問の回答を表形式で一つにまとめた部分があることから、結果として数が少なくなっている。

会長： アンケート調査票が未完成のため、質問項目のみ列記してあるが、これではわかりにくい。このアンケート調査は射水市の方針を定める大事な資料となる。各委員へ調査票に関する意見を問うのであれば、調査票は実際に配布する形のものを示したほうがよい。

事務局： 早急に調査票を作成し、各委員へ提示する。

委員： 障がい者基本計画は、障がいに関する6年間の総合的な計画であり、障がい福祉計画は、基本計画に定めた目標を実施するための具体的な施策を策定する3年間の計画だと思う。今回のアンケートは、いわば前期計画となる第7期障がい福祉計画の基礎資料とするために実施するものであれば、3年後の後期計画となる第8期障がい福祉計画を策定する際にもアンケート調査を行う予定か。

また、前回アンケート調査票の回収率を伺いたい。回収率の対応が悪い場合はどのように対応されるのか。

事務局： 委員ご指摘のとおり、3年後の第8期障がい福祉計画策定時にもアンケート調査を実施する。

また、前回アンケート帳票の回収率は53.6%であり、この調査結果をもとに障がい福祉計画を策定した。

これまでのアンケート調査票の回収方法は、郵送以外に新たにWEB回答の方法を追加した。WEBによる回答方法は、回答者の負担軽減となると考えており、調査票の回収率の向上につながると期待している。

委員： WEB回答可能なアンケート調査は、今回の対象者1000人だけができるのか。それとも、ホームページ等で公開し、対象者以外の方も回答できるのか。

事務局： WEB回答ができるのは、調査対象者のみである。回答方法は、送付する調査票に記載したWEB回答用のQRコードを利用することを想定している。調査対象者は障がい者手帳所持者としており、ホームページ等を利用した不特定多数の方を対象とした調査は難しいと考えている。

会長： 今回の調査は、障がい者手帳所持者から1000人を無作為抽出している。対象者を一般者に広げず、このままでよいと思う。

調査票の回収率が過半数を超えれば統計的なものは出ると思う。アンケート調査の結果は大事なデータとなるので、回収率アップにつながるよう努めてほしい。